

江戸時代の学習 < 藩校・寺子屋 >

(1)新学習指導要領のねらい

新学習指導要領の3の(5)のウに、「各地方の生活文化については、身近な地域の事例を取り上げるように配慮し、藩校や寺子屋などによる教育の普及や社会的な文化の広がりに関連させて、現在との結び付きに気付かせるようにすること」とある。これをふまえて授業を展開する。

(2)本時の目標

さいたま市にも藩校、寺子屋があったことを知り、当時の人々の教育に対する思いを考え、地域の具体的な事柄との関わりの中で日本の歴史を理解することができる。

寺子屋教育が庶民の間にどのように普及していったのかを考え、庶民の学問への関心の高まりが近代教育成立の基礎となっていることに気付く。

地域の史跡・文化財を守り・育てていこうとする意欲を養う。

(3)展開

	学習活動・学習内容	・指導上の留意点 評価	資料
導入	<p>発 『いつ頃から人々は学校に通うようになったのか？なぜ通うようになったのか？』に対し、自由に発表する。</p> <p>・岩槻遷喬館・寺子屋の映像を見て、気付いたこと、知っていることを発表し合う。</p> <p>・疑問、調べてみたいこと各自ノートに書く。</p> <p>例「藩校や寺子屋の数は多かったのか？ 藩校と寺子屋の違いは？」など。</p> <p>・「藩校設立数の推移」「寺子屋数の推移」の資料からわかること、疑問をノートに書く。</p>	<p>・多くの生徒にテンポ良く発表させる。</p> <p>・寺子屋で使われたそろばんなど、さいたま市立博物館から借りてくる。</p> <p>・出てきた地名はさいたま市地図で確認する。</p> <p>・課題設定の仕方を学ばせる。</p>	<p>そろばん</p> <p>【映像】 岩槻遷喬館・寺子屋</p> <p>【地図】 さいたま市</p>
展開	<p>発 『なぜ藩校、寺子屋の数が増え続けているのか？』</p> <p>・その原因を各階層の立場にたって考える。 武士、商人、農民</p> <p>・身分によって学ぶ場所が違うことに気付く。</p> <p>・さいたま市江戸時代教育レポーター（2グループ）が、地図や映像を交えながら調べたことを説明する。</p> <p>・発表は2回行う。（1回目はメモをとらず、発表者の話を聞く。2回目にメモをとる。）</p>	<p>・どんな階層でも、学問の重要性が高まってきたことに気付かせる。</p> <p>・レポーターは、土曜の午後に教師の引率のもとで現地調査を行い、発表原稿を作成する。（岩槻遷喬館、寺子屋跡）</p> <p>・デジカメ写真など、生徒自ら必要なものを撮り、発表の際使用する。</p>	<p>藩校、寺子屋の資料</p> <p>レポーターの発表原稿・資料</p>

<p>レポート1, 藩校「岩槻遷喬館」担当の説明 → 児玉南可の教育理念...岩槻藩武士の人材育成 藩の再建、新しい知識の吸収 ※ 「遷喬館はどのような役割を果たしたのか？」</p> <p>レポート2, 寺子屋 担当の説明 → 日常生活での知識の必要性、文化の普及 ※ 「寺子屋でどのようなことを学んでいたのか？」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・発表の事前指導を行う。 発表を聞き、わかったことを自分の言葉でまとめ、さらに学習を深めるための疑問を持つことができたか。 (理解・技能) ・レポートを受け、さいたま市にも藩校、寺子屋があり、多くの人が教育を受けられる土壌ができていたことに気付かせる。 【映像】文武学校 ・藩校・寺子屋について、さらに教師が資料を提示し、思考を深めさせる。 藩校資料 (日課表、学習内容など) ・文武学校は、江戸時代の建物が完全な姿で現存している日本で唯一の藩校である。 文書資料 (寺子屋教示、いろは覚え、絵本庭訓往来、塵こう記) ・文書館の資料を使い、寺子屋の様子を解き明かしていく。 ・算学の問題は、生徒自身で読解させた後、黒板でわかりやすく説明する。 ・閑谷学校は、現存する最古の民衆のための学校だが、リーダーの育成という特異性を持つ学校であることを理解させる。 【映像】閑谷学校 なぜ、藩校や寺子屋で学ぶ人が増えたのかを考え、学問の大切さを自分のこととして、認識できたか。 (思考・判断)
<ul style="list-style-type: none"> ・レポートが終わるごとに、わかったことをまとめ(2分)、質疑応答を行う。(2分) ・藩校・寺子屋について、レポートを受けて教師の説明を聞く。 <藩校について> → 「松代藩の藩校、文武学校」の様子を映像や資料から学ぶ 例 「日課表、学習内容、部屋の様子 など」 <寺子屋について> → 文書資料から詳しく考える ・資料「寺子屋教示、いろは覚え、絵本庭訓往来、塵こう記」から寺子屋の様子、どんな内容を教えたのか、を理解する。 ・「算盤書」の資料から、実際に算学の問題を解いてみる。 ・民衆のための教育施設として、岡山藩がつくった「閑谷学校」を映像を交えて紹介する。 <p>まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ※ 『現在の学校との共通点や相違点は?』をノートに書く。 ※ 『藩校や寺子屋で学ぶ人が増えた結果、社会はどのように変わっていったのか?』自分の言葉でまとめ、発表する。 ・本時のテーマ『なぜ学問が盛んになったのか?』に対する答えをノートに書く。 	

(3) 訪問先及び資料の入手先

埼玉県立文書館、さいたま市立博物館、岩槻郷土資料館、 岩槻遷喬館、閑谷学校(岡山県)、文武学校(松代) など

資料

藩校 岩槻遷喬館と児玉南柯



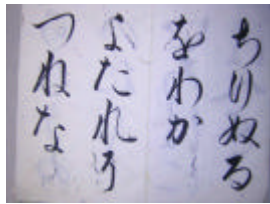
遷喬館内部

児玉南柯

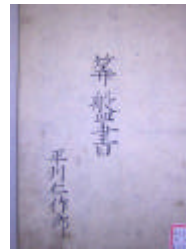
児玉南柯著書「豊氏略記」

寺子屋の教え

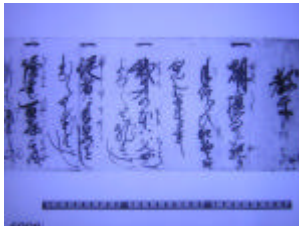
いろは覚え



算盤書



寺子屋教示



「朝早く
起き...」
と書かれている



寺子屋の様子

開谷学校



手習い本

文武学校



文武学校けいこ日割(1855年)

科目	先生(氏名)	時間
書
算
射
武
文
...

寺子屋の史料は、県立文書館所蔵

江戸時代の学習（新田開発）

(1) 学習のねらい

新田開発の必要性を当時の政治・社会的状況から考察し、その方法、苦勞・後の世に与えた影響を考えることができる。

自分が通っている中学校のすぐ近くが江戸時代の新田開発の舞台であったことを知ることで、歴史を身近に感じ、先人の努力・苦勞を自分達のこととして考えられる。

村の絵地図・検地帳など身近な地域の資料を使い、資料から歴史的事象を考察できる。

(2) 展開

	学習活動・学習内容	・指導上の留意点	評価	資料
導入	<ul style="list-style-type: none"> ・「石高の推移を表すグラフ（江戸前期と享保期）」を見て、なぜ米の生産が増大したのか、を考える。 ・さいたま市の地図から「新田」と名の付く地域にしるしをつけ、そこからわかったことを発表する。 ・小学校で学習している「見沼の干拓」について知っていることを出し合い、理解を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「新田」という地名は、享保期以降に降ついたものが多いことを知らせる。 ・小学校で見沼の干拓について学習してきたことを多くの生徒に、積極的に発表させる。 ・享保の改革について、ポイントを押さえ整理させる。 		【資料】石高の推移 【地図】さいたま市 教科書資料集
展開	発 『なぜ新田開発が盛んになったのか？』 教科書や資料集を使い、享保の改革の必要性からも合わせて考え、ノートにまとめる。 → 例 1 幕府の財政難から年貢を増やす必要性 2 町人への許可 ・享保の改革について説明する。			
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>（本時のテーマ）『新田開発はなぜ、どのように行われたのだろうか？』 ~ 高沼の干拓を例に考えよう！ ~</p> </div>			
	< 新田開発について考える > 発 『まだ開墾していない土地とはどんな土地？』の発問に対し、自由に意見を述べる。 発 『では、開墾のために必要なものは？』再び自由に意見を述べる。 < 高沼の干拓を例に出す > ・「与野領絵図と高沼新田沿革図」を見て、わかること、思ったことを発表し合う。 （新田開発の方法）【1, 用水路の整備】 ・高沼用水を見に行つての感想を述べる。 ・高沼用水について知っていることを発表する。 例 → いつ作られたの？ 長さは？ 誰が？ など	<ul style="list-style-type: none"> ・活発に意見を出させ、全員でテーマに対する答えを導けるよう雰囲気作りをする。 ・小学校の学習の知識をふまえ、筋道たてて考えられるようにする。 ・意見が出た後、教師主導で内容を確認する。 ・事前に、実際に自分の目で見てくるように支持を出す。（与野東中の目の前を流れる） 		【映像】高沼用水 【資料】高沼用水に関するもの

ま と め	<ul style="list-style-type: none"> ・高沼用水について疑問、調べてみたいことをノートに書き、発表する。 例 → なぜ作られたのか？どんな苦労があったのか？ 使用した道具は？ 周辺の土地の高さは？ ・その疑問を解決するため、数々の資料をもとに全員で調べを進めていく。 <p>【2, 開発面積、開発前後の村高の変化】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・旧与野の村を例に出し、資料をもとに調べていく。 ・わかったことをノートにまとめ、発表する。 <p>【3, 新田開発における農民の努力、使用した道具】</p> <p>について当時の与野の農民たちを例に、資料をもとに考えていく。</p> <p>発 『新田開発は行って、良かったのか、悪かったのか？』 その根拠を挙げてノートに書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国の新田開発の様子について教科書、資料集をもとに考え、わかったことをまとめる。 ・再び「与野領絵図と高沼新田沿革図」を見て、補足し、学習のまとめとする。 ・本時のテーマに対する答えをノートにまとめ、発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・高沼の水が使えなくなった農村では、上流から引いてくる用水だけが頼みの綱であり、水をめぐり、村々で争いがあつたことを理解させる。 ・当時使われた道具や農具の実物や映像を見て、人々の日常生活の様子を具体的に理解させる。 ・道具、農具は、さいたま市立博物館から借りてくる。 ・場所、方法、耕地面積など、全国の様子を知り、さいたまの新田開発と比較させる。 <p>学校のそばを流れている用水が歴史的に大きな意義のあるものだとして理解し、さらに、本時のテーマに対し筋道たてて述べることができたか。</p> <p>(理解・思考・表現)</p>	<p>【資料】 高沼干拓に関するもの</p> <p>道具 農具</p> <p>教科書 資料集</p>



(3) 訪問先及び資料の入手先

さいたま市立博物館、くらしっく館、市立浦和博物館、鴻沼資料館、与野郷土資料館、

加田屋新田

現在の様子



見沼代用水東縁



加田屋新田 坂東家



加田屋新田 検地帳

江戸時代の学習 < 地域の伝統芸能、文化的行事 >

(2 時間扱い)

(1) 本時の授業展開を行う理由

新学習指導要領の 2 の (1) のイでは、「受け継がれてきた伝統や文化への関心を高め」の文言が新たに加わっている。これを受けて、授業を展開していく。

さいたま市は近年、マンション建設が増え、他地域からの人口流入が多くなってきている。当然の事ながら、自分たちの住む地域の伝統行事や文化財について全く知らないという生徒が多くなりつつある。したがって、地域に残る伝統行事や文化財に視点を当て、具体的な地域行事を取り扱うことによって、現在の私達の生活の中に生き続けている伝統文化が果たしている意義とその働きに気付かせる。さらに、地域の文化的諸行事に関心を高め、積極的に参加したり、文化財を守り育てていこうとする態度の育成をはかる。地域との関わりをこの社会科授業時間で完結させるのではなく、これを動機付けにして、地域の祭り・行事に積極的に参加する。地域の方々とのふれ合いを通じ、人間的にも成長させていただく。将来、地域の中心的役割を果たしうる生徒を育成していく。

(2) 生徒の実態

私は 11 月～ 12 月に、勤務校である与野東中学校 2 年生の選択社会の授業をお借りして、T・T で指導にあたった。週 1 回、20 名のクラスである。現教員がしっかりと社会科を教えていることもあり、授業に前向きに積極的に取り組んでいる。問題集を行うと、スラスラと解ける生徒も多く、歴史の基本的用語をかなり理解している様子が伺える。しかし、班で協力して話し合いをしたり、自分の考えを発表したり、自分の言葉で書く、といったことが少々苦手な様子も感じている。本単元の調査活動（聞き取り調査・文献調査）新聞・ポスター作成学習、発表学習、学習をもとに地域に出ていく活動を通じ、調査・発表の方法を習得させ、学び合いの姿勢・自己表現力の向上をはかっていきたいと考える。

ここで授業前のレディネス調査の結果を示す。(生徒 20 人)

- | | |
|-----|---|
| Q 1 | あなたは与野の祭りに行ったり、伝統芸能を見に行ったりすることがありますか。 |
| | ある 16 人 ない 4 人 |
| Q 2 | Q 1 であると答えた方 何の祭り・伝統芸能に行きましたか。(複数回答可) |
| | 上落合盆踊り 10 人 上落合御輿 5 人 与野本町の祭り 5 人 区民祭り 3 人
ばら祭り 3 人 下落合御輿 2 人 大正時代祭り 1 人 |
| Q 3 | なぜ、その祭り・伝統芸能が行われるようになったか知っていますか。 |
| | 知っている 1 人 知らない 19 人 |
| Q 4 | あなたは、社会が好きですか。 |
| | 好き 13 人 (65%) きらい 7 人 (35%) |
| Q 5 | 社会が楽しい、おもしろいと感じるのはどんな時ですか、書いてください。 |
| | わかった時 (自分で調べて・自分の知らないことが・歴史の流れが・事件の原因、理由が) 11 人
自分で調べているとき 3 人 実物などを見に行ったりするとき 3 人 地方の特産物や伝統文化を知れるとき
外国の歴史を学習しているとき 世界の国々の生活を知れるとき |

レディネス調査の結果、多くの生徒が与野の祭り・伝統芸能に関心をもち参加しているが、その起源を知っている（考えたことのある）生徒は皆無に等しい。一つ一つの物事には歴史的背景があり、

先人達の強い思いがあることを気付かせ、それを掘り下げていくことで、自分達が住んでいる与野の歴史を理解させ、地域に愛着と誇りを持たせる。実物を見に行ったり、聞き取り調査を行うなど、歴史をダイレクトに感じさせ、歴史の学び方を習得させる。その上で問題解決学習を行い、思考力・判断力・表現力を高めることがねらいである。

(3)本単元のねらい

地域の祭り・民俗芸能の由来、それを始めたその当時の人々の思い、にふれるとともに、今日の中で果たしている意義を考える。

伝承された地域の祭り・民俗芸能を守り・育てていこうとする意欲を養う。

発表学習の中で、教える側・学ぶ側のそれぞれの目的をしっかりと持たせ、生徒同士の「学び合い」の姿勢を育てる。

(4)本単元の計画（第1時～4時）

学習活動・学習内容	・指導上の留意点 評価
<p><第1時>【歴史調査とは...】 調査の仕方を学ぶ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大テーマ、これからの学習内容、方法を伝える。 <p>『祭り・伝統行事のルーツを探る!』～祭り・伝統行事に込められた昔の人々の思い・願いとは？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・与野東中の目の前にある、「石橋供養塔・高沼用水」を見に行き、この2つについて5W1H(いつつくられた? など)を理解する。 ・教室に戻り、調査の仕方を聞く。<課題設定 仮説 文献 調査 聞き取り調査 仮説を検証 課題解決> 	<ul style="list-style-type: none"> ・何気なく見ている石橋供養塔や高沼用水が、歴史的に意義深いものであることに気付かせる。 ・「歴史学習は机上だけではない」ことを改めて理解させ、今後の学習の方針を示す。
<p><第2時>【グループ分け・調査計画作り】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体で班ごとのテーマを決める。 <p>夏祭り(御輿) 盆踊り・送り盆 一山神社冬至祭り 円阿弥万作踊り 庚申講</p> <ul style="list-style-type: none"> ・決まったテーマに対し、班長中心に調査計画をたてる。 ・テーマに対する課題を個人で作成し、班で話し合い、複数の班課題を決定する。 ・課題に対する予想を話し合う。 ・次時までには課題解決のための資料を学校図書館、市の図書館、与野郷土資料館などで探してくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・規律ある班の話し合いになるよう、話し合いのやり方を説明しておく。 ・インターネット資料は、情報の正確性を期すため、「公の機関のもの」に限る。
<p><第3時>【文献資料の分析・まとめ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各班の課題に対し、探してきた文献資料をもとにまとめていく。 ・文献資料にのっていない内容をふまえ、聞き取り調査の質問を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・まとめは、表、グラフを入れさせる。 ・質問は、個人で考えさせ、それから班で話し合い、決定させる。 ・聞き取り調査カードは、班内の役割

<ul style="list-style-type: none"> ・班で、聞き取り調査カードを作成する。 	分担、質疑内容、訪問場所など細かく記入させる。
【聞き取り調査を行う】(土曜日を使って)	
<訪問先> 上落合夏祭り(御輿)と 盆踊り・送り盆(上落合) → 上落合自治会長 徳永さん 一山神社冬至祭り → 一山神社宮司 新藤さん 円阿弥万作踊り → 会長 野本さん 庚申講(与野本町) → 与野本町下町 中村さん、高橋さん	
<ul style="list-style-type: none"> ・制服着用、徒歩で訪問する。 ・班で協議した質問、話を聞いて新たに出てきた質問をする。しかし、質問一辺倒ではなく、地域の方々と会話をしよう心がける。 ・学校に戻り、聞き取り調査の結果を質疑応答プリントにまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に教師がアポイントをとり、相手方に学習の趣旨を伝えておく。 ・与野東中生として、行動に自覚を持たせる。 ・教師は付き添うが、生徒達にすべて行わせる。
<第4時> 【聞き取り調査の分析・まとめ・新聞作り】 <ul style="list-style-type: none"> ・質疑応答プリントをもとに聞き取り調査の分析・まとめを行う。 ・前時に行った文献資料のまとめと併せ、課題の仮説に対する答えをつくる。 ・班で協力し、課題解決型の新聞を作成する。 ・次時、新聞を中心使い、班で発表を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新聞の書き方、レイアウトは事前に教師が示す。 ・各記事のタイトルを工夫して、読者を引きつけさせる。 ・各記事について、記事ソースが文献か聞き取りによるものかを、明確に示させる。

第5, 6時の展開は以下に示す通りである。

(5)第5・6時の授業展開

	学習活動・学習内容	指導上の留意点 評価	資料
導 入	<第5時> <ul style="list-style-type: none"> ・与野東中の生徒が参加している、御輿・盆踊りの映像を見て、「なぜ、祭りをやるのだろうか?」という発問に対し、意見を出し合う。 ・身近な地域(与野東中付近)で行われている、伝統芸能を映像で観て様子をつかむ。~万作踊りなど~ ・前時に作ったさいたま市伝統芸能マップを見て、わかること、思ったことを発表する。 ・生徒制作の年表により、それらの伝統行事がいつ頃始められたのか確認し、その頃の社会情勢について考える。 ※『なぜ、伝統行事が行われるようになったのか?』班で話し合い、確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習にスムーズに入っていけるよう、視覚的に訴える。 ・さいたま市の大きな地図を使用し、それぞれ行われている場所の位置を確認する。 ・祭り、伝統行事に込められた人々の思いを考えられる授業を展開する。 	【映像】 御輿・盆踊り 万作踊り 【地図】 さいたま市伝統芸能マップ 生徒制作年表

- ・本時の学習の確認をする。

祭り・伝統行事のルーツを探る！』
 ～祭り・伝統行事に込められた昔の人々の思い・願いとは？～

展
開

- ・5つに分けた各班から、聞き取り調査などに基づく、伝統行事に関するプレゼンテーションを行う。

(5つの班の調べる内容と課題)

上落合夏祭り(御輿)
 盆踊り、送り盆(上落合)
 一山神社冬至祭り(与野本町)
 万作踊り(円阿弥) 庚申講(与野本町)

・各班の共通のテーマ
 『どのような考え方から祭り・伝統行事がおこってきたのか? ～そこから江戸・明治時代の人々の生活・思想をうかがおう!～』

<プレゼンテーション内容(聞き取り調査の内容)>

どんな祭り・伝統芸能なのか? いつ、どこで行うのか? どんな願いが込められているのか? いつ頃から始まり、どのように伝わってきたのか? 昔と今で変化したことがあるのか? 現在の問題点は? 他地域にも同じものがあるのか? など

- ・テーマに対する答えを導く課題解決の形で、班で協力してプレゼンテーションを行う。

1班のプレゼンテーションは、10分とする。

説明をうける 4分
 わかったことをまとめる 3分
 質疑応答 2分
 移動 1分

同様にあと3回のプレゼンテーションを行う。

- ・4つの班のプレゼンテーションを聞いて、与野の人々が祭りや伝統行事に込められた思いを考える。

ま
と
め

- ・生徒制作の年表(江戸～明治)を見て本時の発表がどの辺りを扱っているのか、確認する。
- ・本日の発表で良かった班とその理由を書く。

- ・様々な手法使って発表を行うよう班ごとに工夫させる。

- ・班で明確な役割分担をし、一人ひとりが主体的に学習に取り組めるようにする。
- ・プレゼンターに、時間内で課題解決に迫る内容の濃い説明が出来るよう事前指導しておく。

- ・司会進行、計時も生徒が行う。
- ・聞き手の生徒はプレゼンの際、発表者の目を見て集中して話を聞き、終わった後にワークシートにまとめる。

- ・他の班の説明を聞き、重要な箇所を自分の言葉でまとめさせる。
- ・質疑応答で、答えられない次までに班で調べてこさせる。
- ・残りの1班のプレゼンは次時にまわす。

様々な祭り、伝統芸能から、その起源、意義、彼らの思いを考えることで、多面的に江戸・明治期の与野の人々の思い、様子が理解できる。

(思考・理解)

自分たちの足でかせいできた資料を活用し、郷土の祭り、伝統芸能について理解を深める。

(資料活用・理解)

模造紙
紙芝居
劇
クイズ
など
各班が
作成し
たもの

発表
原稿

ワーク
シート

生徒制
作年表

<p>導 入 展 開</p>	<p>< 第 6 時 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒制作の年表により、それらの伝統行事がいつ頃始められたのか確認し、その頃の社会情勢について復習する。 ・前時に発表できなかった 1 班のプレゼンテーションを行う。(9 分) ・発表の総括をする。発 『祭り、伝統文化がどのように継承されてきたのか？ 今日の問題点は何か？』をもう一度整理する。 ・各班ごとに発表する。 例 後継者不足。参加者が集まらない。 地域コミュニティの希薄。 など ・「なぜ東中が上、下落合の祭り、盆踊りに積極的に参加するようになったのか？」教師の話聞く。 → 若者の祭りへの参加が少なくなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・与野の歴史と通史を常に結びつけて考える習慣をつけさせる。 ・数々の問題点から、このままではいけないことを実感させ、「自分たちで何とかしなければ」と具体的に行動をおこさせる。 ・地域の方々に、歴史学習をふまえ、自分達の考え・思いを発信するという、強い気持ちを抱かせる。 	<p>生徒制作年表 発表原稿</p>
<p>祭り・伝統行事をPRするポスターを作ろう！</p>			
<p>ま と め</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・PRするチラシを作り、東中の他学年の生徒・保護者に与野の祭り・伝統行事について知ってもらい、参加を呼びかける。 ・由来、内容、日時など入れ、参加したくなるようなチラシに仕上げる。 ・5 班分のチラシを黒板に掲げ、クラス全員で評価する。 ・2 時間分のテーマ『祭り、伝統行事に込められた人々の思いとは？』の答えを、自分の言葉で書く。 <p>後日、実際に地域の行事に参加し、地域の方々と共に行動する。(一山神社冬至祭・万作踊りなど)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・班員全員が協力して 作品を作り上げる。 ・「引きつけられる、参加したくなる」という視点で、休み時間に手にとって読み、次時までに、良かった 2 班とその理由をノートに書いてくる。 「江戸・明治時代の人々の思い」を様々な発表、資料をもとに考え、自分の言葉でまとめることができたか。 (表現・資料活用) 	<p>ポスター用紙</p>

(6) 訪問先及び資料の入手先

中央区役所、さいたま市立博物館、与野郷土資料館、文化財保護課、一山神社、円阿弥万作踊り保存会、与野本町庚申堂、小村田氷川神社、円阿弥盆踊り など

上落合の御輿



下落合の御輿



一山神社



小村田氷川神社



与野本町庚申堂

